



小淵経産相辞任へ

政治資金問題で引責

就任1カ月政権に打撃

小淵優子経済産業相は18日、支持者向けに行った観劇会の費用の収支が食い違っている問題などの責任を取り、辞意を固めた。イタリヤでのアジア欧州会議(ASEM)首脳会議から帰国した安倍晋三首相と会談し、辞表を提出する方向。平成24年12月に発足した第2次安倍政権で任期途中の閣僚辞任は初めて。9月の内閣改造からわずか1カ月余りで主要閣僚が辞任に追い込まれた。消費税の10%への引き上げ判断や原発再稼働を控える首相は政権基盤の安定化を迫られており、後任の人選を急ぐ。

小淵氏の政治資金をめぐる疑惑は同氏の後援会など2つの政治団体が22、23年の政治資金収支報告書で支持者向けの観劇会の収入として計約740万円を記載。観劇費やバス代などの支出は2年間で約3400万円と記載しており、収支で約2600万円の差額が生じている。支持者に対する格安の観劇であれば公職選挙法が禁じる有権者への利益供与に抵触する可能性が指摘されてきた。

観劇会は24年にも開かれ、戦後最年少の34歳で初入閣を果たし、財務副大臣など要職を歴任。日本初の女性首相候補の一人に挙げられていた。

小淵氏は首相だった父、恵三氏の急死を受け、12年の衆院選で群馬5区から立候補し初当選。麻生太郎内閣で少子化担当相に抜擢され、戦後最年少の34歳で初入閣を果たし、財務副大臣など要職を歴任。日本初の女性首相候補の一人に挙げられていた。



衆院経済産業委員会で答弁する小淵優子経産相—17日、国会・衆院第12委員室(酒巻俊介撮影)